

整形外科 初期研修プログラム

必ず習得するアウトカム

1. 四肢と脊椎の診かたを身につける
2. 骨折、脱臼など運動器外傷の画像診断、初期治療ができる
3. 四肢外傷手術を経験する

研修目的

整形外科は骨、軟骨、筋、靭帯、神経など運動器官を構成する組織における疾病や外傷を対象とした、運動器疾患の診療、研究を行う専門領域です。対象は新生児、小児、学童から成人、高齢者まで全ての年齢層であり、その内容は様々です。整形外科に対する社会的ニーズを認識し、日常診療で頻繁に遭遇する腰痛、関節痛などの愁訴に適切に対応できるよう、プライマリケアに必要な運動器疾患の基本的診療能力（態度、技能、知識）を修得することを目的とします。

研修目標

- ◇ 一般目標
運動器の外傷や慢性疾患に対する基本的な知識と診療能力を習得する。
- ◇ 行動目標
 1. 代表的な運動器外傷について病態を理解する
 2. 代表的な運動器慢性疾患について病態を理解する
 3. 病歴を聴取して適切に記載、評価することができる
 4. 四肢と脊椎の身体所見、神経学的所見がとれ、評価ができる
 5. 単純X線、CT、MRIなどの画像検査の指示をだし、評価、診断ができる
 6. 診断のために必要な検査の指示をだし、判断ができる
 7. 単純な骨折、脱臼、靭帯損傷に対して応急処置ができる
 8. 創傷処理（洗浄、デブリードマン、縫合など）ができる
 9. 関節穿刺、関節内注射、腱鞘内注射を行うことができる
 10. 運動器リハビリテーションを理解しオーダーすることができる
 11. カンファランスで担当症例のプレゼンテーションを行うことができる
- ◇ 研修期間中に経験可能な疾患・疾病、および手技
変形性膝関節症：関節穿刺、関節内注射、人工膝関節置換術（15例）
変形性股関節症：人工股関節置換術（15例）
頸部脊髄症：椎弓形成術（5例）
腰部脊柱管狭窄症：開窓術（6例）
腰椎椎間板ヘルニア：ヘルニア摘出術（3例）
脊椎後弯変形：脊椎固定術（2例）
脊髄腫瘍：腫瘍切除術（3例）

大腿骨近位部骨折：骨折観血の手術（15例）、人工骨頭挿入術（6例）

橈骨遠位端骨折：ギプス固定、骨折観血の手術（4例）

上腕骨近位部骨折：保存的治療、骨折観血の手術（2例）

脊椎圧迫骨折：保存的治療（20例）

四肢骨・関節・関節周囲骨折：保存的治療、骨折観血の手術（20例）

関節リウマチ：関節形成術、骨切り術など（1例）

研修方略

方略	行動目標	方法	人数	場所	時間	媒体	人的資源	学習時期
1	1~10	講義	1人	外来・病棟	適時	臨床研修・画像	指導医	毎日
2	1~10	実技研修	1人	外来・病棟・手術室	適時	臨床研修・実技	指導医	毎日
3	11	SGD	1人	外来	1時間	画像	指導医	毎週 月・火・木曜日

研修評価

知識、技能、態度に関して口頭試験、実地試験、診療録、レポート、プレゼンテーションなど、研修期間中に指導医が適宜行う

週間予定表

	午前	午後	夕方
月	外来診療 病棟回診	総回診	手術カンファレンス
火	フィルムカンファレンス 手術、外来診療、 病棟回診	手術	
水	外来診療 病棟回診	研修日	
木	手術、外来診療、 病棟回診	手術 病棟回診	
金	フィルムカンファレンス 手術、外来診療、 病棟回診	手術	

指導責任者および指導医

指導責任者： 小澤 浩司
指導医： 石塚 正人
〃： 菅野 晴夫
〃： 峯岸 英絵
〃： 千葉 晋平
〃： 加藤 慶彦

学生（4～6年生）や他科研修中研修医のカンファレンスの参加の可否

参加可

研修医発表会、学会発表に対する指導体制

あり

同時期に受け入れ可能研修医数（1クール：3ヶ月）

1名/1クール